

# ころんだ



子どもの転倒は、つかまり立ちができるようになる生後10か月頃から起こり始め、一人歩きを始める1歳でピークになります。

子どもは重心が高く、相対的に頭が大きいために転倒しやすく、低年齢ほど頭をけがしやすいです。

## 応急処置のポイント

### 直ちに救急車を呼ぶ



- ✓ 意識がおかしい  
(興奮、眠りがち、反応が鈍い、同じことを何回も言う)
- ✓ 目の周りや耳の後ろにあざがある
- ✓ けいれんしている



頭

### 直ちに救急車を呼ぶ



- ✓ 肩で息をするように苦しそうだったり、呼吸が速い



胸

### 早めに救急外来を受診

- ✓ たんこぶがある、意識を失ったけど今は意識が戻っている
- ✓ 嘔吐する、強い頭痛がある



### 直ちに救急車を呼ぶ



- ✓ 見た目が変形して変形した場所より先の色が悪く触られても触感がない



手足

### 直ちに救急車



- ✓ 強く痛がって顔色が悪いとき



おなか

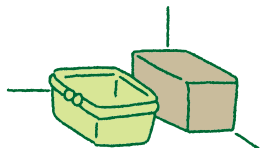
### 早めに救急外来を受診

- ✓ 変形していても色が悪くなく触った感じがわかる



## 家庭での事故(傷害)予防のポイント

自宅の中で、つまずきやすい場所や物がないようにしましょう



自転車やキックスクーターなどの乗り物を使用するときはヘルメット、膝・肘当てをして乗りましょう



水筒など、身につけるものは転倒したときにけがにつながらないようにたすきがけしないことをおすすめします



## 実際にあった事例

水筒による腓外傷  
Injury Alert (傷害速報) No.59

7歳の男の子が、校庭でつまづいて転倒し、首からさげていた水筒が地面とお腹の間に挟まり、みぞおちを強打した。腓臓を損傷しており緊急手術となった。

## 主治医からのひとこと